

玉座担ぎの図に見える文化交流

本川 真輝

広大な領土を支配したアケメネス朝ペルシアの美術はたくさんの他の美術の影響を受けている。そのアケメネス朝ペルシアの美術の中の一つである玉座担ぎの図の中に描かれている図像から、特に玉座の脚がライオン足である点と担ぎ人のポーズ、有翼円盤に注目して文化交流の跡を見ていこうと思う。

玉座担ぎの図とは帝王の支配下にいる民族が全て描かれ、王の乗っている玉座壇を担いでいるという図であり、王の権力を象徴的に表わしている図である。玉座担ぎの図はダリウス 世の墓のレリーフに用いられたのが最初である。この玉座担ぎの図が後継者の墓のレリーフにも用いられ、ダリウス 世の墓のレリーフを模倣していた。この墓のレリーフの他に作られたのは、ダリウス 世がエジプト人に作らせたスーサ出土のダリウス像の基底部の絵である。このダリウス像を玉座担ぎの図に入れたのは、まず王の下に描かれている人々が被支配民族が全て描かれている点と

その人々が担ぐポーズをとっているからである。そして柱に描かれた図である。玉座担ぎの図はこの3タイプしかない。この玉座担ぎの図のタイプ1と2（ペルシア美術の表現）に描かれているいろいろな要素に注目して分析を試みようと思う。

玉座担ぎの図の担ぎ人のポーズはアッシリアのセンナケリブのレリーフの玉座の支柱に用いられているポーズからモチーフの借用をしている。また、王が支配する全民族を描くという方法をエジプト美術から借用している。玉座担ぎの図に描かれている有翼円盤は人の姿を円盤上にとるという点でアッシリアの有翼円盤からモチーフの借用をしている。ただし、翼の表現においてはアッシリアだけでなく、エジプト美術の影響も受けている。家具に用いるライオン足については、エジプトタイプとアッシリアタイプがあり、玉座担ぎの図に描かれている玉座はアッシリアタイプである。しかし、アッシリアではテーブルや足載せ台にはライオン足が用いられているが、玉座には用いられていない。そこで玉座担ぎの図に描かれているライオン足の玉座は、アッシリアタイプであるウラルトゥの玉座から由来している。